

▶第二期（令和4～8年）施策の内容と新規事業

【施策1】近江の地場産品の**需要拡大**のための、新商品の開発に対する支援、情報の提供、新たな販路の開拓の促進等

○近江の地場産業事業者等の海外展開戦略に係る取組支援

（増）SDGsに対応するための取組にかかる支援

→**近江の地場産業の新たな展開事業（通番29、32）【モノづくり振興課】**

【施策2】近江の地場産業事業者等の**経営基盤強化**のための、経営改善および合理化、資金の供給の円滑化等

→**地場産業設備整備支援事業費補助金（通番52）【モノづくり振興課】**

【施策3】新商品開発等に係る**調査研究、多様な分野における事業展開**の促進

○公設試験研究機関を中心として、高度化、多様化するニーズに対応した新商品開発のための調査研究

（増）MLGsを活用した商品開発等の支援

（増）AIやIoT等を活用した商品開発や業務効率化によるDX推進等への支援

→**近江の地場産業の新たな展開事業（通番55）【モノづくり振興課】**

（新）○地場産品等の地域にある資源を活用した観光産業との連携促進

観光産業と連携した取組への支援

→**シガリズムコンテンツ創出事業（通番68）【観光振興局】**

【施策4】担い手となる人材の**確保、育成、資質向上**に対する支援、優れた**技術等の継承**の推進等

（新）○事業承継に向けた取組の支援

地場産業事業者等の事業承継に向けた取組への支援

→**滋賀発事業承継プロジェクト促進事業（通番81）**

令和4年度近江の地場産業および近江の地場製品の振興に関する施策

▶第二期（令和4～8年）施策の内容と新規事業

【施策5】近江の地場産業および近江の地場製品に対する**関心および理解を深める**ための、普及啓発、多様な学習機会の提供等

○小中学生等が地場産業等にふれ、理解を深める機会の提供

（増）地場産業等の関係人口創出を意識した取組への支援

→**地域で取り組む担い手育て事業（通番86）**

【施策6】近江の地場産業および近江の地場製品に関する実態についての**定期的な調査**および分析

▶施策の数と当初予算

施策	事業数	予算額（千円）
施策1	39	621,887
施策2	7	31,864,919
施策3	14	183,417
施策4	11	75,229
施策5	10	343,882
施策6	1	30,550
合計	82	33,119,884

（同一の「施策の内容」内で再掲は除く）

令和4年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
(1) 近江の地場産品の需要拡大のための、新商品の開発に対する支援、情報の提供、新たな販路の開拓の促進等								
ア 近江の地場産品のPRイベントや地産地消を推進するキャンペーンの実施、近江の地場産業事業者等のPR活動に対する支援(15事業)								
1		創 「発酵産業」成長促進化プロジェクト事業	地域の資源や素材を活かした発酵産業の創出を図るため、県内事業者による発酵を軸とした新たな商品・サービスの開発や販路拡大、認知度向上に向けた取組を支援する。	○ターゲットを意識した商品・サービス開発、販路開拓および学びの推進	プロジェクト件数 (6件)	3,000	商工政策課	-
2		伝統的工芸品月間等参加事業	伝統的工芸品産業の振興を図るため、(一財)伝統的工芸品産業振興協会が実施する伝統的工芸品月間事業と全国伝統的工芸品展に参加する。	○(一財)伝統的工芸品産業振興協会が実施する伝統的工芸品月間事業と全国伝統的工芸品展に参加	WAZA展への出展を通して「販路開拓につながった」と感じた事業者の割合 80%	2,666	モノづくり振興課	17
3		創 「滋賀県モノづくり・匠の技展」開催事業	伝統的工芸品等の、手仕事の技術の高さ・実用性・美といった価値を広く県民に伝えるため、体験・実演・展示・販売の総合的な取組を実施する。	○県および国指定の伝統的工芸品の展示・実演や体験を内容とした展示販売会を開催。 (開催期間:3日間を想定、開催場所:県内の大型商業施設を想定)	「周知を図ることができた」と感じた出展事業者の割合 (80%)	3,000	モノづくり振興課	-
4		創 近江の地域産業振興総合支援事業	地場産業組合等が実施する海外の販路開拓、持続的発展に向けた後継者育成や国内での販路拡大等、ブランド力向上を目指した取り組みを支援する。	○協議会を運営し、地場産業や地場産品に関わる施策の推進を図る。 ○地場産業等について表彰を行う。 ○地場産業組合等が行う国内外の販路開拓、後継者育成や、地域特産品組合間の連携による商品開発や販路開拓支援(補助金) ○地場産業事業者の販路開拓等のために総合プロデュースを行う専門家を派遣(委託)	商品開発や販路開拓に取り組んだ事業者の数 (令和4年度:15)	30,550	モノづくり振興課	27 72 93

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
5		創 近江の地酒文化普及事業	近江の地酒に関する魅力を発信し、県民等の近江の地酒に対する愛着を高め、地酒でもてなす機運を醸成することで新たなファン獲得や需要の掘り起こしを行い、滋賀への誘客促進や関係人口の創出を図る。	○「近江の地酒」に関する魅力の発信 ・近江の地酒もてなし普及協議会開催 ・地酒イベントキャンペーンの開催 ・Web広告に係る情報発信 ○「近江の地酒」認知度向上・ファン獲得 ・近江の地酒ファン獲得に繋がる資材の作成 滋賀県酒造組合が首都圏等で開催するイベントを支援	・商談件数50件 ・一般参加型イベント参加者10,000人	4,000	観光振興局	82
6		創 食べて健康「滋賀の野菜」消費拡大事業	民間事業者等と連携して、県産野菜等の新しい食べ方提案や食べられる店舗の見える化を図り、消費者の日常生活の多様な場面(内食、中食、外食)で県産野菜等の魅力を感じられる機会を創出し、その消費拡大を図る。	○内食・中食での消費拡大 ・新しい食べ方の提案による家庭での県産野菜の消費拡大 ○外食での消費拡大 ・県産野菜の食べられる機会の見える化 ・民間企業等との連携	県産野菜を継続して提供・PRする飲食事業者数 (R5年度末60事業者)	5,228	みらいの農業振興課	20
7		近江米消費拡大推進事業	関係団体等と連携し、世代やターゲットごとに新たな食べ方提案やエビデンス等に基づいた近江米の魅力を発信する。また、子どもたちへの食育活動や消費者自ら近江米の魅力を発信することで近江米のファンをさらに広げる。	○近江米の魅力発信 ・米食の正しい知識・有用性についての情報発信 ・近江米の魅力を伝える啓発イベント等の開催 ○消費者による近江米のファン拡大 ・SNS等を活用した消費者自らが近江米の魅力を発信する企画の展開	消費者によるSNS等への近江米魅力発信の投稿数 R5 1,500	2,700	みらいの農業振興課	84
8		新 地域ニーズに応える直売所等応援事業	直売所が実施するデータ分析に基づく生産・販売戦略の策定や戦略に基づく取組、生産者等が実施するネット販売の取組を支援する。	○データ分析に基づく直売所生産・販売戦略策定等支援 ・生産・販売戦略の策定支援、戦略に基づく出荷者育成活動の支援等 ○ICT活用力の強化 ・ICTを活用したネット販売等の取組支援	ICTの強化に取り組む事業者数 R5 44事業者	7,100	みらいの農業振興課	-

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
9		① 地域食品産業連携プロジェクト(LFP)推進事業	持続可能な新たなビジネスモデルを創出するため地域の食と農に関する多様な関係者が参画したプラットフォームを形成し、食品関連事業者等の新商品開発等に向けた取組を支援する。	○LFPプラットフォームの形成 ・研修会の開催、戦略会議の開催等 ○新商品開発等に向けた取組 ・食品関連事業者等が行う新商品の開発、消費者評価会の開催、販路開拓等の取組を支援	—	8,100	みらいの農業振興課	—
10		① 新時代の近江牛応援団づくり事業	県内の児童等が近江牛や食の安全に対する理解を深め、将来の近江牛ファンを育てるだけでなく、関係者同士が近江牛のPRを通じて有機的なつながりを持ち、新たな近江牛応援団を獲得する取組に対し支援する。	○関係団体が行う、県内の学校等で関係者が出前事業と食育を行う取組に対する支援。 ○新たな近江牛のシンボルを通じ、関係者が一体となってPRする取組に対する支援。	近江牛の出荷額の増 (16,878千円)	1,974	畜産課	89
11		水産物流通促進対策事業	滋賀県水産加工業協同組合が実施する湖魚の普及宣伝活動に対して支援する。	○滋賀県水産物加工品評会の開催 ○滋賀の水産加工品のPR冊子の作成	—	500	水産課	42 47
12		しがの水産物流通拡大対策事業	「びわサーモン」の特徴を広く周知するとともに、イメージの向上と定着を図るため、PR活動や新たなメニュー開発などに対して支援。	○地元料理店、料理人等との連携による新たなびわサーモンメニューの開発および提供 ○消費者に向けたびわサーモンの情報発信	—	200	水産課	—
13		多様で革新的な流通モデル実践事業	今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、漁業組織が経営スキルの強化を目的に、流通事業者と連携して湖魚の新たな流通モデルの検討・実践を行う取組を支援する。	湖魚の新たな販路・流通の確立に向けて、市場調査や流通手法についての検討を行い、首都圏等の大都市圏等へ向けた流通モデルの実践と評価を行う。	—	10,000	水産課	

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
14		魚のゆりかご水田米販路 開拓事業	魚のゆりかご水田米の取組について、首都圏や京阪神地域の小売業や流通業者を現地に招くことにより販路開拓を図る「現地ツアー」、および京阪神地域のショッピングモールで、取組紹介やマーケティング等のPR活動を行う。	○魚のゆりかご水田米現地視察ツアー ・首都圏や京阪神地域の米卸や小売業者を魚のゆりかご水田米生産現地に招聘する。説明会、ミニ商談会の実施。 ○京阪神地域でのPR活動の実施 ・ショッピングモールや百貨店でのPR活動	PR活動の件数	1,600	農村振興課	-
15		滋賀のくすり振興対策事業	「滋賀のくすり」のイメージアップを図り、販路を拡大するための啓発活動に対して支援する。	○(一社)滋賀県薬業協会が行う滋賀のくすり販売促進活動事業の支援(補助金)	-	500	薬務課	-
イ 首都圏情報発信拠点「ここ滋賀」を活用したPRイベントの開催等、首都圏における近江の地場産業事業者等の販路開拓等取組支援(9事業)								
16		創 ここ滋賀推進事業	第2期(令和4年度～令和8年度)の運営事業者と連携して情報発信拠点「ここ滋賀」を運営し、滋賀の魅力を実際に見て、触れて、食べることができる体験型の発信を行うとともに、滋賀への誘引と関係人口の創出につなげる。あわせて、「ここ滋賀」外への販路拡大に向けた支援や、首都圏での滋賀ファンの拡大などにも取り組む。	○情報発信拠点運営事業 ・「ここ滋賀」運営にかかる賃借料や運営管理費など ○滋賀の魅力体感創造事業 ・情報発信や観光誘客の強化に向けた取組・企画催事やメディア発信の実施・県産品の販売促進や販路開拓、首都圏での展示会や即売会の開催支援など、県内事業者との連携	「ここ滋賀」の来館者数 45万人	209,819	観光振興局 (ここ滋賀)	-
17		伝統的工芸品月間等参加 事業(再掲)	伝統的工芸品産業の振興を図るため、(一財)伝統的工芸品産業振興協会が実施する伝統的工芸品月間事業と全国伝統的工芸品展に参加する。	○(一財)伝統的工芸品産業振興協会が実施する伝統的工芸品月間事業と全国伝統的工芸品展に参加	WAZA展への出展を通して「販路開拓につながった」と感じた事業者の割合 80%	(再掲)	モノづくり振興課	2

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
18		環境こだわり農産物流通 拡大事業	環境こだわり農産物の有利販売・流通拡大を目指し、「環境こだわり米コシヒカリ」の集荷・流通促進や高付加価値販売のための取組等に対して支援する。	○環境こだわり米コシヒカリ、みずかがみの統一プロモーション ○環境こだわり野菜高付加価値販売プロジェクト	環境こだわり米コシヒカリの作付面積 (R4年度 みずかがみと環境 こだわり米コシヒカリの作付面積 9,000ha以上)	4,700	みらいの農業振興課	-
19		つなげる！応援店「滋賀の 食材」県外プロモーション 事業	首都圏や京阪神において、ホテル・飲食店等と県内生産者等との継続的な関係構築をめざし、滋賀食材の認知度向上、消費拡大を図る。	○首都圏プロモーション ○京阪神プロモーション ○販路開拓活動支援(補助金)	首都圏における 「おいしがうれし が」キャンペーン推 進店登録件数 (R4年度末累計120 店舗)	12,570	みらいの農業振興課	-
20	創	食べて健康「滋賀の野菜」 消費拡大事業	民間事業者等と連携して、県産野菜等の新しい食べ方提案や食べられる店舗の見える化を図り、消費者の日常生活の多様な場面(内食、中食、外食)で県産野菜等の魅力を感じられる機会を創出し、その消費拡大を図る。	○内食・中食での消費拡大 ・新しい食べ方提案による家庭での県産野菜の消費拡大 ・首都圏での県産食材ファンの獲得 ○外食での消費拡大 ・県産野菜の食べられる機会の見える化 ・民間企業や大学等との連携	県産野菜を積極的に活用する飲食店数 (R5年度末60事業者)	(再掲)	みらいの農業振興課	6
21		オーガニック近江米等産 地育成事業	オーガニック米の生産拡大を図るため、関係団体と連携し、収量・品質の安定化に向けた栽培技術の普及を図るとともに、まとまった需要が見込める首都圏等で、統一デザインを用いた「オーガニック近江米」等の販路開拓を進める。さらに、オーガニック農業の産地づくりの推進を図る。	○生産拡大事業 ・有機農業を進める人材の育成を図る。 ・乗用型水田除草機への導入を支援する。 ・有機JAS認証取得を支援する。 ○オーガニック近江米販路開拓事業 ・首都圏等における販路開拓を図る。 ・京阪神への販売促進を図る ○オーガニック農業の産地づくり推進 ・オーガニック近江米等の推進体制を整備する。	オーガニック農業 (水稲:有機JAS認 証相当)取組面積 (ha) (R4年度 300ha)	16,156	みらいの農業振興課	-

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
22		創 みんなで築く「おいしい オーガニック茶」産地育成 事業	海外への市場開拓を進めるとともに、消費者の安全・安心志向に応え、ブランド力を持った「近江の茶」産地の育成を図るため、高品質なオーガニック栽培による茶生産の取組を支援する。	○高品質有機栽培技術の確立(茶業指導所) ○有機栽培茶の高品質生産の実証(補助金) ○有機栽培茶の製茶体制構築に向けた支援(補助金)	-	2,979	みらいの農業振興課	40 63
23		しがの力強い水田農業確立推進事業	農業所得の最大化に向け、近江米振興協会や各産地が実施する需要の変化に対応する米づくりや自給率の向上が求められる麦・大豆の本作化等の取組を支援するとともに、新たな需要を切り拓くための新品種の育成等を加速する。	○近江米のブランド力向上を目的とした「特Aプロジェクト」等の取組支援(補助金) ○各産地が実施する需要の変化に対応する米づくりや麦・大豆等の生産、流通・販売の取組支援(補助金) ○水稻の新品種の育成を加速化(農業技術振興センター)	全国の主食用米需要量に占める近江米のシェア(R4年度:2.16%)	152,326	みらいの農業振興課	-
24		新 創 みらいにつなぐ近江米新品種プロジェクト	オーガニック栽培等を見据えた水稻新品種の育成・現地実証およびマーケットインを意識した新たな流通対策の検討を行う。	○消費者・生産者が喜び、環境に配慮した生産が可能な品種の育成 ○意欲ある農家と連携した現地での実証栽培 ○マーケットインを意識した新たな販売戦略等の検討・作成	-	19,500	みらいの農業振興課	-

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
	ウ	近江の地場産業事業者等の海外展開戦略に係る取組支援(5事業)						
25		海外展開総合支援事業	「①友好協定やMOUに基づき築き上げてきた諸外国とのネットワークを活かした経済交流の促進」、「②ジェトロ滋賀等の関係機関と連携した県内企業への総合的な海外展開支援」を組み合わせ、新型コロナ等によるビジネス環境の変化に対応した新しい海外展開事業に取り組む県内企業等を総合的に支援し、海外展開を通じた経営の強靱化や反転攻勢への取組を後押しする。	○海外視察団受入事業 海外からの視察団を受入れることにより、県内企業への情報提供、情報発信を推進する。 ○ベトナム等経済交流推進事業 ホーチミン市等で開催される展示会等への参加および政府関係者、キーパーソンの本県への招聘を通じて、県内企業との経済交流を図る。 ○海外展開連携事業 ジェトロ滋賀貿易情報センターに係る負担金を支出する。	—	17,570	商工政策課	—
26		海外展開チャレンジ支援事業	ジェトロ滋賀貿易情報センター等と連携の上海外展開事業にチャレンジする県内企業等を支援し、海外展開を通じた経営の強靱化への取組を後押しする。	○①新たな海外販路開拓事業、②新たな海外拠点進出・多角化事業を行う際に、その経費の一部を補助する。	—	16,500	商工政策課	—
27		創 近江の地域産業振興総合支援事業 (再掲)	地場産業組合等が実施する海外の販路開拓、持続的発展に向けた後継者育成や国内での販路拡大等、ブランド力向上を目指した取り組みを支援する。	○協議会を運営し、地場産業や地場産品に関わる施策の推進を図る。 ○地場産業等について表彰を行う。 ○地場産業組合等が行う国内外の販路開拓、後継者育成や、地域特産品組合間の連携による商品開発や販路開拓支援(補助金) ○地場産業事業者の販路開拓等のために総合的プロデュースを行う専門家を派遣(委託)	商品開発や販路開拓に取り組んだ事業者の数 (令和4年度:15)	(再掲)	モノづくり振興課	4 72 93
28		世界に広げる「滋賀の食材」海外プロモーション事業	海外における滋賀県産食材・食品の販路拡充・需要拡大を促進する。	○アジアや米国等におけるプロモーション等での滋賀県産食材のPR活動 ○県内生産者等が行う海外での販路開拓活動への支援(補助金)	—	12,680	みらいの農業振興課	—

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
29		新 近江の地場産業の新たな 展開支援事業	時代に適合した取組を推進するため、世界市場で注目されているSDGsを意識した海外展開支援や、賛同者が広がるMLGsと創造手にPRを図る取組を支援する。	・SDGsや海外マーケティングの専門家によるセミナー ・SDGsやMLGsを活用するための工業技術センターによる支援(技術支援、デザイン支援、映像作成支援等) ・地元産の薪を燃料として使用し、陶磁器を焼成するイベントへの支援(薪窯発信プロジェクト)	—	1,926	モノづくり振興課	31 56
エ 近江の地場産業事業者等に対する技術提供や共同研究、商品開発等の取組支援(12事業)								
30		びわ湖材産地証明事業	びわ湖材産地証明制度の運営および品質認定の取得を支援するとともに、新たな木材利用を普及啓発する。	○CLT等の普及促進を図るとともに、びわ湖材の利用拡大をするための研修会を開催。 ○びわ湖材産地証明制度の運営および日本農林規格(JAS)認定の取得を支援。	びわ湖材証明を行った年間木材量(115,000m³) 【令和12年度】	3,648	森林政策課	43
31		プロジェクトチャレンジ支援事業	中小企業が新プロジェクトを立案しチャレンジできる環境を整備することで、新製品や新技術開発を活発化し、開発されたものを事業化へつなげることによって、県内経済の向上につなげる。	○プロジェクトチャレンジ支援事業費補助金 ・新商品や新技術開発にかかる必要な調査、研究開発経費の一部を助成する。 ・CO2削減につながる技術開発を積極的に採択するCO2ネットゼロ枠を新たに設ける。 ○フォローアップ支援事業 ・チャレンジ計画等の企画、実施、成果の事業化について各段階に応じた支援をおこなう。	中小企業の新製品等開発計画の認定等件数(9件/年)	44,058	モノづくり振興課	55
32		新 近江の地場産業の新たな 展開支援事業(再掲)	時代に適合した取組を推進するため、世界市場で注目されているSDGsを意識した海外展開支援や、賛同者が広がるMLGsと創造手にPRを図る取組を支援する。	・SDGsや海外マーケティングの専門家によるセミナー ・SDGsやMLGsを活用するための工業技術センターによる支援(技術支援、デザイン支援、映像作成支援等) ・地元産の薪を燃料として使用し、陶磁器を焼成するイベントへの支援(薪窯発信プロジェクト)	—	(再掲)	モノづくり振興課	29 56
33		創 拡 「近江の地酒」魅力向上支援事業	工業技術総合センターの支援の下で県内醸造所共通の課題解決のため香りと旨味と滋賀らしさにこだわった商品開発や、安定・高品質な製品を製造するため新製品開発につながる技術支援を戦略的・短期集中的に実施して「近江の地酒」の技術・品質向上と消費拡大を技術面からサポートする。	○小規模醸造試験の前に、各種条件を様々な組み合わせで変えたビーカーレベルでの醸造試験と分析・評価(スクリーニング)を実施 ○分析データを元に醸造所が目指す最適条件を獲得し、小規模醸造試験ならびに実地醸造試験へ積極的に活用	新商品数(4酒)、 県開発酵母利用製品数(8酒)[令和3~4年度]	5,159	工業技術総合センター	—

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
34		窯業技術研究開発事業	県内の陶磁器および窯業関連団体の技術支援および産業振興を目的に、新製品および新素材の研究開発を行う。	○陶磁器デザイン指導事業 試験場のデザイン及び試作技術等を生かした技術指導 ○「3D技術を活用した陶製品製造技術に関する研究」 ○「新しい生活様式のための陶製品開発」の実施と成果普及	技術移転(特許出願、実施許諾を含む)、試作品開発、新素材開発件数(25件)	3,772	工業技術総合センター	57
35		地域産業育成指導事業	窯業関連事業者への技術情報の提供および窯業関連製品や素材の試験および研究を行う。	○技術情報誌「陶」発行、技術講習会開催、「TEIBAN商品開発研究会」「信楽焼屋上緑化研究会」支援、機器開放、技術指導、製品・素材の研究開発	—	1,058	工業技術総合センター	58
36		「デジタル技術を活用した陶製品開発人材育成事業」	県内陶磁器製造企業へのコロナ後の景気回復と技術支援を目的にデジタル技術を活用した商品開発のための人材育成を実施する。	○3Dプリンタ等のデジタル成形加工技術を活用した最新機器による技術講習会の開催と先行技術開発 ○個別指導(実習)や試作支援による商品開発	育成延べ人数(30人) 商品の開発(5件)	2,448	工業技術総合センター	59
37		ものづくり技術高度化事業	県内製造業で必要となる「ものづくり技術」の高度化を目指した技術開発と高性能・高機能な新規材料を創製し、企業の技術競争力強化、および新分野進出を支援する。	○「地域繊維技術を活かした高付加価値繊維製品の開発」 ○「県内産プラスチック材料の利活用と高付加価値化のための機能制御技術開発」	—	1,715	東北部工業技術センター	60

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
38		技術移転・共同研究事業	当センターで開発した新技術の研究成果を企業などに移転するとともに、共同研究を実施することで、実用化に必要な種々の条件について検討を加え早期の企業化を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○「シミュレーションによる大口径バルブの流量特性およびキャビテーション性能評価」 ○「鉛フリー銅合金「ビワライト」の産地普及と性能評価に関する研究」 ○「鋳造プロセス向け連続测温センサーの開発」 ○「低キャビテーション高性能流体制御バタフライ弁の実用化研究」 	産学官連携共同研究数 (25件) 技術普及件数 (12件)	1,216	東北部工業技術センター	61
39		地域産業支援事業	コロナ危機により大きな影響を受けた地域・地域産業の回復に向けて、従来技術や地域資源を活用しながら、ウィズコロナ時代を見据えた製品開発や技術開発の支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ○繊維産業開発支援 ○バルブ産業開発支援 ○ブランド構築支援 ○ICT支援 	講習会等の開催数 (20回)	2,525	東北部工業技術センター	62
40		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">創</div> みんなで築く「おいしいオーガニック茶」産地育成事業(再掲)	海外への市場開拓を進めるとともに、消費者の安全・安心志向に応え、ブランド力を持った「近江の茶」産地の育成を図るため、高品質なオーガニック栽培による茶生産の取組を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ○高品質有機栽培技術の確立(茶業指導所) ○有機栽培茶の高品質生産の実証(補助金) ○有機栽培茶の製茶体制構築に向けた支援(補助金) 	「近江の茶」輸出量 (10t)	(再掲)	みらいの農業振興課	22 63
41		水産物流通促進対策事業(再掲)	滋賀県水産加工業協同組合が実施する湖魚の普及宣伝活動に対して支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ○滋賀県水産物加工品評会の開催 ○滋賀の水産加工品のPR冊子の作成 	—	(再掲)	水産課	11 46
オ 情報発信ツールやインターネット等を活用した産地情報や産品情報のPR(6事業)								
42		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">創</div> 滋賀の匠クラウドファンディング支援事業	クラウドファンディングを活用した新規顧客の獲得や販売拡大等を目指す伝統的工芸品等事業者への支援をおこなう。	クラウドファンディングの活用を希望する県および国指定の伝統的工芸品の事業者等が、既存商品の周知・販路拡大・伝統の継続のためのクラウドファンディング活用について支援を行う。	クラウドファンディングの目標を達成した事業者の割合 (100%)	932	モノづくり振興課	—

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
43		びわ湖材産地証明事業 (再掲)	びわ湖材産地証明制度の運営および品質認定の取得を支援するとともに、新たな木材利用を普及啓発する。	○CLT等の普及促進を図るとともに、びわ湖材の利用拡大をするための研修会を開催。 ○びわ湖材産地証明制度の運営および日本農林規格(JAS)認定の取得を支援。	びわ湖材証明を行った年間木材量 (115,000m ³) 【令和12年度】	(再掲)	森林政策課	30
44		木育推進事業	木製玩具等の木育製品の活用を通じて木の良さや利用の意義を学んでもらい、暮らしの中で木を使い親しむ環境づくりを啓発することを通じて、びわ湖材の利用拡大を進める。	○木育指導者等による木育の実践、展示会への出展や冊子による情報発信により、普及啓発を行う。 ○木育製品の貸出により木育の魅力を県域に発信する。	びわ湖材証明を行った年間木材量 (115,000m ³) 【令和12年度】	8,121	森林政策課	-
45		伝統的工芸品産業振興事業	伝統的工芸品産業の振興を図るため、指定産地の調査や伝統的工芸品紹介冊子を制作する。	○伝統的工芸品に関するパンフレットの増刷	-	441	モノづくり振興課	-
46		水産物流通促進対策事業 (再掲)	滋賀県水産加工工業協同組合が実施する湖魚の普及宣伝活動に対して支援する。	○滋賀県水産物加工品評会の開催 ○滋賀の水産加工品PR冊子の作成	-	(再掲)	水産課	11 41
47		創 拡 しがの漁業魅力発信スキルアップ事業	今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、担い手の販売スキル向上のための意識醸成、学びあいの場を提供するとともに、就業希望者の受け入れ態勢の充実、湖魚取扱い情報の発信を図る。	○意欲ある担い手を対象に所得向上に向けた研修会等を実施する。 ○漁業への就業相談、短期の体験研修、半年間程度の漁労技術等の研修を実施する。 ○琵琶湖八珍等のびわ湖のめぐみに関する情報を発信する。	びわ湖産魚介類を活用する事業者数 (300件)	15,450	水産課	70 78

令和4年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
(2)近江の地場産業事業者等の経営基盤強化のための、経営改善および合理化、資金の供給の円滑化等								
ア 近江の地場産業事業者等の経営改善および合理化推進のための支援(5事業)								
48		中小企業経営革新支援事業	中小企業の新事業を促進するため、「中小企業等経営強化法」に基づく経営革新計画の承認および外部専門家による指導・助言を行うとともに、商品化、販路開拓等に要する経費の一部を助成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○経営革新計画承認審査会の開催 ○市場化ステージ支援事業補助金による支援 ○経営革新計画フォローアップ調査の実施 ○経営革新計画制度周知パンフレットの作成 	「市場化ステージ支援事業補助金企業化状況調査」による企業化率 (35%)	14,825	中小企業支援課	-
49		滋賀の魅力活用型ちいさな企業応援補助金	県内中小企業のうち9割近くを占める小規模事業者が策定する滋賀の魅力(しがの資源)を活用した新たな取組に関する計画に従って実施する事業のうち、事業化・市場化段階にある事業について経費の一部を助成する。	○滋賀の魅力(資源)を活用する事業に新たに取組もうとする小規模事業者を引き続き支援する。	新商品市場化または販路開拓が進んだと感じた事業者の割合 (80%)	4,000	中小企業支援課	-
50		小規模事業経営支援事業費補助金	商工会、商工会議所および商工会連合会が小規模事業者のために行う経営改善普及事業等に要する経費に対して助成する。	○商工会、商工会議所および滋賀県商工会連合会の経営指導員等の人件費およびその活動費等を補助	経営発達支援計画に掲げる売上増加事業者数目標を達成した商工会・商工会議所の割合75%	1,446,565	中小企業支援課	-
51		中小企業連携組織対策事業費補助金	滋賀県中小企業団体中央会が中小企業の組織化、育成および指導のために行う事業に要する経費に対し助成する。	○中小企業団体中央会の指導員等の人件費およびその活動費等を補助	中央会の指導対応が、「課題解決に繋がった」とする割合90%以上を獲得する。	101,561	中小企業支援課	-

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
52		補 地場産業設備整備支援補助事業	新型コロナウイルスおよび原油価格・物価の高騰の影響を受けた県内の地場産業事業者に対し、生産体制の強化および新事業の創出のために必要な経費について助成を行う。	県内の地場産業組合、地場産業事業者および伝統的工芸品の製造事業者が所有する生産設備の更新、新設または増設にかかる経費の一部を補助。	-	6,000	モノづくり振興課	
イ 近江の地場産業事業者等に対する、金融機関と協調した長期・低利の融資の活用促進(2事業)								
53		中小企業振興資金貸付金	中小企業者の経営安定等を図るため、制度融資を実施する。	○中小企業者等の経営の安定と体質改善に必要な資金の貸付け	-	30,203,000	中小企業支援課	-
54		水産振興資金融資基金預託金	漁業経営の近代化、経営の安定および合理化等に必要な資金の融資を行う。	○随時、申請に応じて融資を行う。	-	34,968	水産課	-

令和4年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
(3)新商品開発等に係る調査研究、多様な分野における事業展開の促進								
ア 公設試験研究機関を中心として、高度化、多様化するニーズに対応した新商品開発のための調査研究の推進(11事業)								
55		プロジェクトチャレンジ支援	中小企業が新プロジェクトを立案しチャレンジできる環境を整備することで、新製品や新技術開発を活発化し、開発されたものを事業化へつなげることによって、県内経済の向上につなげる。	○プロジェクトチャレンジ支援事業費補助金 ・新商品や新技術開発にかかる必要な調査、研究開発経費の一部を助成する。 ・CO2削減につながる技術開発を積極的に採択するCO2ネットゼロ枠を新たに設ける。 ○フォローアップ支援事業 ・チャレンジ計画等の企画、実施、成果の事業化について各段階に応じた支援をおこなう。	中小企業の新製品等開発計画の認定等件数 (9件/年)	(再掲)	モノづくり振興課	31
56		① 近江の地場産業の新たな展開支援事業	時代に適合した取組を推進するため、世界市場で注目されているSDGsを意識した海外展開支援や、賛同者が広がるMLGsと創造手にPRを図る取組を支援する。	・SDGsや海外マーケティングの専門家によるセミナー ・SDGsやMLGsを活用するための工業技術センターによる支援(技術支援、デザイン支援、映像作成支援等) ・地元産の薪を燃料として使用し、陶磁器を焼成するイベントへの支援(薪窯発信プロジェクト)	—	(再掲)	モノづくり振興課	32
57		窯業技術研究開発事業 (再掲)	県内の陶磁器および窯業関連団体の技術支援および産業振興を目的に、新製品および新素材の研究開発を行う。	○陶磁器デザイン指導事業 試験場のデザイン及び試作技術等を生かした技術指導 ○「3D技術を活用した陶製品製造技術に関する研究」 ○「新しい生活様式のための陶製品開発」の実施と成果普及	技術移転(特許出願、実施許諾を含む)、試作品開発、新素材開発件数 (25件)	(再掲)	工業技術総合センター	34
58		地域産業育成指導事業 (再掲)	窯業関連事業者への技術情報の提供および窯業関連製品や素材の試験および研究を行う。	○技術情報誌「陶」発行、技術講習会開催、「TEIBAN商品開発研究会」「信楽焼屋上緑化研究会」支援、機器開放、技術指導、製品・素材の研究開発	—	(再掲)	工業技術総合センター	35

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
59		「デジタル技術を活用した陶製品開発人材育成事業」(再掲)	県内陶磁器製造企業へのコロナ後の景気回復と技術支援を目的にデジタル技術を活用した商品開発のための人材育成を実施する。	○3Dプリンタ等のデジタル成形加工技術を活用した最新機器による技術講習会の開催と先行技術開発 ○個別指導(実習)や試作支援による商品開発	育成延べ人数(30人) 商品の開発(5件)	(再掲)	工業技術総合センター	36
60		ものづくり技術高度化事業	県内製造業で必要となる「ものづくり技術」の高度化を目指した技術開発と高性能・高機能な新規材料を創製し、企業の技術競争力強化、および新分野進出を支援する。	○「地域繊維技術を活かした高付加価値繊維製品の開発」 ○「県内産出プラスチック材料の利活用と高付加価値化のための機能制御技術開発」	—	(再掲)	東北部工業技術センター	37
61		技術移転・共同研究事業	当センターで開発した新技術の研究成果を企業などに移転するとともに、共同研究を実施することで、実用化に必要な種々の条件について検討を加え早期の企業化を目指す。	○「シミュレーションによる大口径バルブの流量特性およびキャビテーション性能評価」 ○「鉛フリー銅合金「ビワライト」の産地普及と性能評価に関する研究」 ○「 castingプロセス向け連続測温センサーの開発」 ○「低キャビテーション高性能流体制御バタフライ弁の実用化研究」	産学官連携共同研究数 (25件) 技術普及件数 (12件)	(再掲)	東北部工業技術センター	38
62		地域産業支援事業	コロナ危機により大きな影響を受けた地域・地域産業の回復に向けて、従来技術や地域資源を活用しながら、ウィズコロナ時代を見据えた製品開発や技術開発の支援を行う。	○繊維産業開発支援 ○バルブ産業開発支援 ○ブランド構築支援 ○ICT支援	講習会等の開催数 (20回)	(再掲)	東北部工業技術センター	39

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
63		創 みんなで築く「おいしい オーガニック茶」産地育成 事業(再掲)	海外への市場開拓を進めるとともに、消費者の安全・安心志向に応え、ブランド力を持った「近江の茶」産地の育成を図るため、高品質なオーガニック栽培による茶生産の取組を支援する。	○高品質有機栽培技術の確立(茶業指導所) ○有機栽培茶の高品質生産の実証(補助金) ○有機栽培茶の製茶体制構築に向けた支援(補助金)	「近江の茶」輸出量 (10t)	(再掲)	みらいの農業振興課	22 40
64		高品質近江牛づくり推進 事業	畜産技術振興センターで生産した高品質の雌子牛を農家へ譲渡するため、育成牧場での優良繁殖雌牛の整備と効率的な改良を図る。	○育成牧場での優良繁殖雌牛の整備および効率的な改良を図るとともに、生産した雌子牛を農家に譲渡	—	41,449	畜産課	—
65		家畜の改良増殖と優良種 畜の譲渡事業	近江しゃもの種卵を生産者へ供給する。	○地場産品に位置づけられている「近江しゃも」の種卵を供給	—	4,445	畜産課	—
イ 新ビジネスの創造に向けた異分野・異業種の連携による商品開発等の促進(2事業)								
66		新創 オープンイノベーション推 進事業	様々な技術シーズを有する県内中小企業等や、県外企業や大手企業を取り込んだ“出会いの場(フォーラム)”を形成し、企業間マッチングを推進する機会の提供やコーディネーターによる伴走支援を通じて、オープンイノベーションを加速することで、新事業創出と県内中小企業の競争力強化を図る。	○異業種交流会や座談会、研究会等の開催 ○フォーラム内の企業マッチングを促進するコーディネータの設置 ○技術展示会での開発成果の発信強化等による販路獲得の支援	過去5年間に、外部資金を活用した開発等を実施した企業のうち、事業化した割合 :50%	25,270	モノづくり振興課	—

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
67		創 6次産業化サポート事業	農林漁業者と多様な事業者が参画した6次産業化ネットワークを構築して取り組む新商品開発や販路開拓等を支援する。また、他業種と連携した新しいビジネスの展開を合わせて支援する。	○6次産業化プランナーの派遣、インターンシップ研修等に係る企画・事業推進、6次産業化計画認定者等のフォローアップ(委託料) ○新ビジネスの創造を検討するきっかけを提供するためセミナーを開催し、農林水産業者の連携や取組のレベルアップを支援(委託料) ○研究会会員による新ビジネスの調査研究活動を支援(補助金)	新たな加工・販売等に取り組む実践者数(毎年) (10事業者)	14,001	みらいの農業振興課	-
		ウ 地場産品の地域にある資源を活用した観光関連産業との連携促進(1事業)						
68		新創 シガリズムコンテンツ創出事業	県内各地の価値ある資源を体験・体感することができる滋賀らしいツーリズムを創出するため、観光素材の掘り起こし、魅力分析等を行い、観光誘客につなげる。	○各地域へのコーディネーターの配置、現地調査・素材発掘、素材の分析・磨き上げ、商品化、県内共通販売システムの構築、データ蓄積等	シガリズムコンテンツ創出件数(R4:64本)	41,000	観光振興局	-

令和4年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
(4)担い手となる人材の確保、育成・資質向上に対する支援、優れた技術等の継承の推進等								
ア 担い手となる人材の確保のための情報提供(3事業)								
69		地域連携型モノづくり人材育成事業	本県の窯業業界の振興を図るため、窯業技術者養成のための専門研修を実施する。	○研修生を受け入れ1年間の研修期間に、大物・小物ろくろ成形科、デザイン科、素地釉薬科に別れ、講義および実習の研修による技術者の養成を実施。	窯業技術者養成研修受講者数(7名)	1,015	工業技術総合センター	73
70		創 拡 しがの漁業魅力発信スキルアップ事業	今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、担い手の販売スキル向上のための意識醸成、学びあいの場を提供するとともに、就業希望者の受け入れ態勢の充実、湖魚取扱い情報の発信を図る。	○意欲ある担い手を対象に所得向上に向けた研修会等を実施する。 ○漁業への就業相談、短期の体験研修、半年間程度の漁労技術等の研修を実施する。 ○琵琶湖八珍等のびわ湖めぐみに関する情報を発信する。	新規漁業就業者数 (研修制度を活用して就業した者) 10人(R3~7の累計)	(再掲)	水産課	47 78
71		製菓技術の向上支援事業	製菓等技術者の資質向上を図るための研修等を行う。	○製菓等技術者の資質向上を図るため、製菓ビギナーセミナー、製菓eセミナーおよび製菓スキルアップセミナーを開催。	-	1,986	薬務課	-
イ 後継者育成や技術継承のための取組の実施および支援(8事業)								
72		創 近江の地域産業振興総合支援事業 (再掲)	地場産業組合等が実施する海外の販路開拓、持続的発展に向けた後継者育成や国内での販路拡大等、ブランド力向上を目指した取り組みを支援する。	○協議会を運営し、地場産業や地場産品に関わる施策の推進を図る。 ○地場産業等について表彰を行う。 ○地場産業組合等が行う国内外の販路開拓、後継者育成や、地域特産品組合間の連携による商品開発や販路開拓支援(補助金) ○地場産業事業者の販路開拓等のために総合プロデュースを行う専門家を派遣(委託)	商品開発や販路開拓に取り組んだ事業者の数 (令和4年度:15)	(再掲)	モノづくり振興課	4 27 93

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
73		地域連携型モノづくり人材育成事業(再掲)	本県の窯業業界の振興を図るため、窯業技術者養成のための専門研修を実施する。	○研修生を受け入れ1年間の研修期間に、大物・小物ろくろ成形科、デザイン科、素地釉薬科に別れ、講義および実習の研修による技術者の養成を実施。	窯業技術者養成研修受講者数(7名)	(再掲)	工業技術総合センター	69
74		みらいの就農促進・定着支援事業	就農に向けて、相談から定着にいたるまでの一貫した支援体制を整え、次代の優れた本県産業の担い手の育成確保を図る。	○職業としての農業への関心を高めるため大学生へ出前講座等を開催する(補助金) ○就農相談活動や就農準備講座の開催、青年農業者の交流等を支援(補助金)	—	11,792	みらいの農業振興課	—
75		未来の養蚕創造プロジェクト事業	本県における繭生産に向けた養蚕業の復活および今後の展開の方向性について検討する。	○桑栽培、蚕飼育技術の習得、向上支援(補助金) ○養蚕の取組試行に対する支援(補助金) ○将来の可能性の調査検討(県事業)	養蚕取組組織数(3組織)	800	みらいの農業振興課	—
76		大家畜技術指導事業	近江牛生産農家に対して技術指導を行う。	○定期的な巡回により、繁殖や栄養などの飼養管理の指導を実施	—	776	畜産課	—
77		選ばれる「近江牛」づくりチャレンジ支援事業	多様な消費者ニーズを意識した「滋賀県生まれ・滋賀県育ち」の近江牛作りへの支援に加え、アニマルウェルフェア(AW)を意識した生産体系に向けた取組や滋賀らしい生産PRなど、ブランド力の向上を図る取組を推進する。	○ゲノミック評価を活用した繁殖雌牛改良の取組を支援 ○新たに繁殖経営に取り組む農家への支援 ○AWを意識した飼育など、「滋賀らしい」飼育環境のPRを推進	—	3,590	畜産課	—

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
78		創 拡 しがの漁業魅力発信スキルアップ事業	今後の高齢化による琵琶湖漁業の構造変化を見据え、担い手の販売スキル向上のための意識醸成、学びあいの場を提供するとともに、就業希望者の受け入れ態勢の充実、湖魚取扱い情報の発信を図る。	○意欲ある担い手を対象に所得向上に向けた研修会等を実施する。 ○漁業への就業相談、短期の体験研修、半年間程度の漁労技術等の研修を実施する。 ○琵琶湖八珍等のびわ湖のめぐみに関する情報を発信する。	新規漁業就業者数 (研修制度を活用して就業した者) 10人(R3~7の累計)	(再掲)	水産課	47 70
79		滋賀のくすり振興対策事業	経営者等を対象に市場展望と薬業界の今後の進むべき方向についてのセミナー事業に対して支援する。 また、若い人材の育成・確保のための講習会等を開催する。	○(一社)滋賀県薬業協会が行うセミナー事業の支援(補助金) ○化学薬学系の大学生等に対して、県内製薬企業の工場見学会および講習会を開催する。	-	270	薬務課	-
ウ 未来の後継者確保に向けた小中学生や高校生の地場産業等にふれる機会の提供(1事業)								
80		世界にひとつの宝物づくり事業	陶芸作家やボランティア等との協働により、子どもや障がい者が「土」とふれあい、モノづくりの喜び・感動や本物の芸術を体感できるプログラムを提供することにより、陶芸に理解のある次世代の人材育成を図る。	○子どもや障がい者等を対象にした制作体験や展覧会鑑賞などによる教育プログラム(つちっこプログラム)の提供。	「つちっこプログラム」の参加者数 (11,000人(未定))	3,000	モノづくり振興課	87
エ 事業承継に向けた取組の支援(1事業)								
81		新 滋賀発事業承継プロジェクト促進事業	コロナ禍において、自主廃業が増加することが懸念される中、事業者の事業承継ニーズ掘り起こしを強化するとともに、幅広く活用できる補助金により、事業承継を促進する。	○事業承継引継ぎ・支援センターへ照会された、有効な案件に対し報酬を付与。 ○円滑な事業承継に向けた体制整備に向けて行う事業の支援(補助金)。	①事業承継・引継ぎ支援センターへ引き継いだ有効な案件数: 20件 ②事業承継の課題解決に繋がった事業者: 10者	6,000	中小企業支援課	-

令和4年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
(5) 近江の地場産業および近江の地場産品に対する関心および理解を深めるための、普及啓発、多様な学習機会の提供等								
ア 地場産業等への関心を高め、理解を促進するPRイベント等の実施(4事業)								
82	創	近江の地酒文化普及事業	近江の地酒に関する魅力を発信し、県民等の近江の地酒に対する愛着を高め、地酒でもてなす機運を醸成することで新たなファン獲得や需要の掘り起こしを行い、滋賀への誘客促進や関係人口の創出を図る。	○「近江の地酒」に関する魅力の発信 ・近江の地酒もてなし普及協議会開催 ・地酒イベント、地酒研修会の開催 ・Web広告に係る情報発信 ○「近江の地酒」認知度向上・ファン獲得 ・滋賀県酒造組合が首都圏等で開催するイベントを支援 ・近江の地酒ファン獲得に繋がる資材の作成	・商談件数50件 ・一般参加型イベント参加者10,000人	4,000	観光振興局	5
83		しがの地産地消・食育推進事業	県域および各地域の地産地消推進会議の開催や農業体験等による食育活動により、地場農産物の生産拡大と地域内流通および農からの食育を促進する。	○子ども、消費者に向けた地産地消・食育の推進 ・県域・地域における地産地消・食育推進会議の開催 ・学校給食関係者に対する生産者セミナー等の開催 ・農業体験機会等の食育体験等の促進	—	1,128	みらいの農業振興課	—
84		近江米消費拡大推進事業	関係団体等と連携し、世代やターゲットごとに新たな食べ方提案やエビデンス等に基づいた近江米の魅力を発信する。また、子どもたちへの食育活動や消費者自ら近江米の魅力を発信することで近江米のファンをさらに広げる。	○近江米の魅力発信 ・米食の正しい知識・有用性についての情報発信 ・近江米の魅力を伝える啓発イベント等の開催 ○消費者による近江米のファン拡大 ・SNS等を活用した消費者自らが近江米の魅力を発信する企画の展開	消費者によるSNS等への近江米魅力発信の投稿数 R5 1,500	(再掲)	みらいの農業振興課	7

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
85		文化施設管理運営費	県民が文化芸術活動を行う拠点となる県立文化施設(文化産業交流会館)について、事業の実施および施設の管理運営等の業務を指定管理者が行うための管理料等を支出する。	○邦楽・邦舞の公演やその次世代育成事業等を通じて、和楽器をはじめとする伝統産業の普及に取り組む。 ・邦楽・邦舞公演「長栄座」および伝統産業展 ・和楽器の若手演奏家の養成事業 ・邦楽演奏家の学校派遣事業「和のじかん」 ・子供向け伝統芸能普及事業「古典芸能キッズワークショップ」	—	321,320	文化芸術振興課	92
イ 小中学生や高校生が地場産業等にふれ、理解を深める機会の提供(7事業)								
86		新 地域で取り組む担い手育て事業	地場産業、伝統工芸の関係人口の増加を図ることを目的に、地域団体等(観光協会や伝統的工芸品の保存会、商工会、学校など)が行う、地場産業や伝統工芸の魅力発信につながる取組について支援する。	○地場産業や伝統的工芸品の魅力を発信するための事業を実施するために直接必要と認められる経費に対して補助	—	1,000	モノづくり振興課	—
87		世界にひとつの宝物づくり事業(再掲)	陶芸作家やボランティア等との協働により、子どもや障がい者が「土」とふれあい、モノづくりの喜び・感動や本物の芸術を体感できるプログラムを提供することにより、陶芸に理解のある次世代の人材育成を図る。	○子どもや障がい者等を対象にした制作体験や展覧会鑑賞などによる教育プログラム(つちっこプログラム)の提供。	「つちっこプログラム」の参加者数(11,000人(未定))	(再掲)	モノづくり振興課	80
88		たんぼのこ体験事業	小学生自らが農産物を「育て」、「収穫し」、そして調理して「食べる」という一貫した体験学習を通して、農業への関心を高めるとともに、生命や食べ物の大切さを学ぶ「農からの食育」を推進する。	○小学校が行う農業体験学習への支援	—	自治振興交付金	みらいの農業振興課	—

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
89		新時代の近江牛応援団づくり事業	県内の児童等が近江牛や食の安全に対する理解を深め、将来の近江牛ファンを育てるだけでなく、関係者同士が近江牛のPRを通じて有機的なつながりを持ち、新たな近江牛応援団を獲得する取組に対し支援する。	○関係団体が行う、県内の学校等で関係者が出前事業と食育を行う取組に対する支援。 ○新たな近江牛のシンボルを通じ、関係者が一体となってPRする取組に対する支援。	近江牛の出荷額の増 (16,878千円)	(再掲)	畜産課	10
90		びわ湖のめぐみ食文化継承促進事業	学校給食に湖魚が提供されることで、湖魚を食べる機会の増加、認知度向上や消費拡大を図る。	○学校給食における多様な湖魚の利用を促進するとともに、新メニュー開発や研修会への支援、関係者に湖魚の利用方法などの情報提供、食育活動支援を行う。 ○琵琶湖漁業と湖魚料理を学べる体験学習会の開催	学校給食での湖魚の年間平均使用回数 (R7:10回)	8,200	水産課	-
91		中学校チャレンジウィーク	中学校において5日間程度の職場体験を実施し、働く大人の姿にふれたり、自分の生き方を考えたりする機会とし、自分の進路を選択できる力や将来社会人として自立できる力を育てる。	○滋賀県内すべての公立学校による、地元の事業所を中心とした職場体験の実施	全公立中学校における地元の事業所を中心とした職場体験を5日間程度実施した学校の割合 (100%)	560	幼小中教育課	-
92		文化施設管理運営費(再掲)	県民が文化芸術活動を行う拠点となる県立文化施設(文化産業交流会館)について、事業の実施および施設の管理運営等の業務を指定管理者が行うための管理料等を支出する。	○邦楽・邦舞の公演やその次世代育成事業等を通じて、和楽器をはじめとする伝統産業の普及に取り組む。 ・邦楽・邦舞公演「長栄座」および伝統産業展 ・和楽器の若手演奏家の養成事業 ・邦楽演奏家の学校派遣事業「和のじかん」 ・子供向け伝統芸能普及事業「古典芸能キッズワークショップ」	-	(再掲)	文化芸術振興課	85

令和4年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策

通番	項目	事業名	事業概要	令和4年度の 具体的取組内容	指標 (数値目標)	当初予算額 (千円)	担当課	再掲
(6) 近江の地場産業および近江の地場産品に関する実態についての定期的な調査および分析								
ア 近江の地場産業および近江の地場産品の実態について概ね5年を目安として調査を実施(1事業)								
93		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">創</div> 近江の地域産業振興総合 支援事業 (再掲)	地場産業組合等が実施する海外の販路 開拓、持続的発展に向けた後継者育成 や国内での販路拡大等、ブランド力向上 を目指した取り組みを支援する。	○協議会を運営し、地場産業や地場産品に関 わる施策の推進を図る。 ○地場産業等について表彰を行う。 ○地場産業組合等が行う国内外の販路開拓、 後継者育成や、地域特産品組合間の連携によ る商品開発や販路開拓支援(補助金) ○地場産業事業者の販路開拓等のために総 合的プロデュースを行う専門家を派遣(委託)	商品開発や販路開 拓に取り組んだ事 業者の数 (令和4年度:15)	(再掲)	モノづくり振興課	4 27 72



シガリズム魅力向上・発信事業



【背景および課題】

- コロナ禍による観光、旅行に対する変化として、「密にならない」、「静謐さを感じる」時間や空間が評価されている。
- こういったこれまで観光素材として十分に活用されてこなかった素材を再発見、再評価し、滋賀の魅力を高め、「観光先として選ばれる滋賀」を目指す。
- そのため、これまで観光コンテンツとして活用されていない農林水産業や地場産業などの分野も魅力的な観光素材と捉え、磨き上げることにより、滋賀ならではの新たなツーリズムの創出が必要。

【取組の方向性】

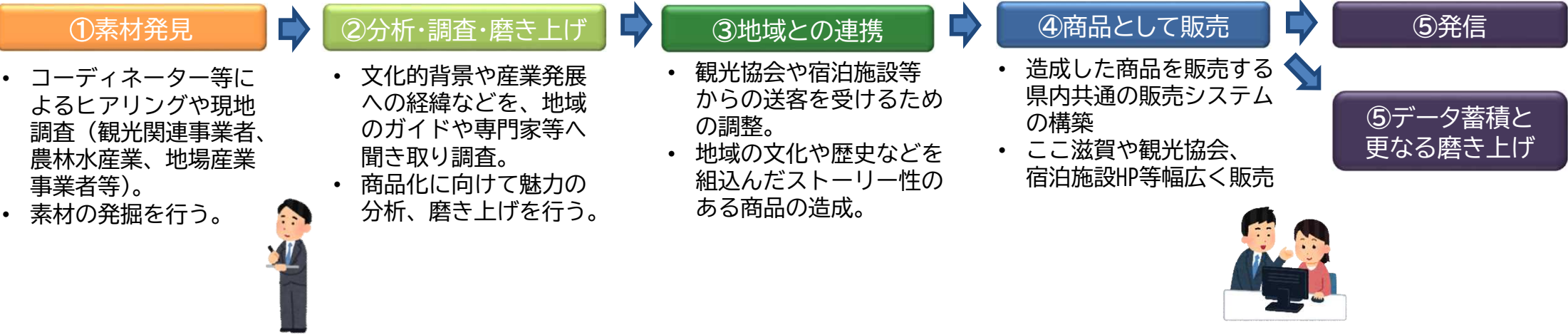
県内各地でシガリズムを「体験・体感」できる地域資源の掘り起こし、磨き上げを行うとともに、観光コンテンツとして商品化を促進し、地域資源を活用した地域の自立を促進する。また、ターゲットに応じて様々な媒体を用いた機動的な情報発信や観光物産PR展の開催により、本県への観光誘客につなげる。

【これまでの観光事業との違い】

- 観光地を単に巡るだけではなく、県民との出会い、交流の中で、地域の暮らし、歴史、文化などを深く感じられる体験・交流型観光を「シガリズム」として推進。
- 地域の資源を次世代に残したいという強い思いのある地域・事業者に対し、資源の磨き上げや商品化、販売流通等について伴走支援を行い、持続可能な観光をめざす。

地域への興味から共感、さらには愛着を生み出し、「また訪れてみたい」「おススメしたい」と感じる滋賀の旅へ。

シガリズムコンテンツ創出事業



シガリズムで創出する多様なコンテンツ

～つなげる、つたえる、つづける～

【取組方針】

他部局、他分野、他業種との連携強化



【農林水産業、食】
漁船での漁師体験と、
湖魚料理の朝食



【文化財、歴史】
観音の歴史や伝承を地元関係者から学び、
魅力に魅了される観音文化体験



【生活文化、発酵、食】
酒の製造過程や酒文化を造り手
から学び、地酒を愉しむ酒蔵見学



【地場産業、モノづくり】
真綿の産地となった地形や
伝統技術を教わりながらの
近江真綿の制作体験



【農林水産業、食】
地元の漁師さんとともに琵琶湖の
暮らしに触れる漁業体験



【地域の公共交通】
交通事業者と連携し、
自転車で巡る
ピワイチガイドツアー

【自然】
インストラクターの案内で
自然を感じるヨット体験



【食、伝統技術】
プロの料理人から滋賀県の食文化を
教わりながらの魚さばき、食体験

※写真はイメージ



【伝統的工芸品、モノづくり】
受け継がれてきた技法や歴史を
教わりながらの組紐制作体験



【歴史、モノづくり】
聖徳太子から伝授された数珠づくりの
ふるさとでの木珠アクセサリーづくり



【歴史、自然】
ガイドさんの案内でまわる歴史
ある寺院での自然体験、苔ワーク
シヨップ



【地場産業、モノづくり】
職人さんから地域の魅力や信楽焼
の歴史を学ぶ工房見学と陶芸体験



【自然、農林水産業】
イケチョウガイへの核入れ体験、
養殖棚の見学クルーズ



シガリズムコンテンツ創出フロー

【漁船での漁師体験と、湖魚料理の朝食の事例】

他分野・他業種と連携し、地域の人を巻き込んで、これまで観光コンテンツとして活用されていなかった地域資源を、観光コンテンツとして磨き上げ、「滋賀を体験する旅」を創出していく。

① 県とBVBによる地域資源の再発見



- 地域資源を求めてまち歩き、聞き取り、文献調査などを実施
- えり漁に注目！

②-1 地元訪問・聞き取り (体験、情報収集)



- 観光協会職員とともに海津漁協を訪問
- 漁師にヒアリング
- えり漁体験

②-2 コーディネーター会議 (素材ごとの検証)



- 漁師体験の可能性・課題を確認
- 商品化候補に選定

②-3 再度の地元訪問 (深掘調査)



- えり漁の歴史、仕組み等ストーリー性の調査
- 食事体験など組合せ素材の調査

②-4 磨き上げや受入環境整備の支援



- 貸出用のライフジャケットの準備
- 朝食会場となる飲食店とのマッチング

②-5 商品化に向けた調整 (期間, 金額, 人数等)



- 内容：氷魚漁と朝食の旅
- 期間：12月～2月
- 金額：1万円
- 人数：1回10人

③ 地域の連携事業者への販路拡大



- 宿泊施設等への商品紹介
- 販売手数料調整
- 5%で合意

④ シガリズム商品販売サイトの構築・商品登録 (販売開始)



- BVBサイト内にシガリズム商品販売サイトを設置
- 事業者や宿泊施設、観光協会等と連動した販売サイトを構築
- 様々なチャンネルを活用し、販売機会を拡大
- 商品の申込、在庫管理、決済等を一元化

⑤ 販売実績データの分析 (更なる磨き上げ)

- 分析結果
- 女性7割
- 寒いとの声が多数
- 日曜日は完売
- 更なる磨き上げ
- 防寒具・膝掛け準備
- 送迎サービスの追加
- 日曜日の漁船を追加

「滋賀をより深く体験する旅」の創出

交流人口の増・地域振興へ

シガリズムで創出する 多様なコンテンツ

～つなげる、つたえる、つづける～

【既存・シガリズムコンテンツ候補事例】

【漁業体験】※BI-WAKE up

○実施日：エリ漁2/1～8/20
2～8時間

○参加費：4,000円～9,000円

○定員：1(2)名～9名

○備考：

- ・初級、本格、オススメの3プラン
- ・漁師の琵琶湖の暮らしに触れる
- ・近隣の宿泊施設と連携

○事業者：フィッシャーアーキテクト ★駒井健也氏



©栗田 理沙

【組紐体験、染色体験】

○実施日：土曜日(日時相談)
約1時間

○参加費：2,000円～12,000円

○定員：～4名

○備考：

- ・慶応3年～
- ・滋賀県の伝統的工芸品
- ・内記台(組台)は江戸時代に発明、幻の組台

○事業者：藤三郎紐 ★太田浩一氏



【金勝寺での苔テラリウムワークショップ】

○実施日：6/25, 10/16, 11/13
9:00～13:45

○参加費：11,550円

○定員：5名～6名

○備考：

- ・歴史ある寺院金勝寺、森林の中での自然体験
- ・苔の観察をする苔フィールドワーク
(★ガイドさん、金勝寺苔ガイドマップ付き)

○事業者：栗東市観光協会



【近江真綿角真綿作り・手引き体験】※ふるさと納税

○実施日：通年

○参加費：5,000円(寄付額)

○定員：__名

○備考：

- ・彦根藩井伊家お墨付きの真綿ブランド
- ・蚕の繭から線を引く製法を270年伝える数少ない真綿屋

○事業者：山協源平商店 ★山協社長



【木製数珠制作場見学・木珠ブレスレットづくり】

○実施日：6/15, 7/20
10:00～12:00

○参加費：5,000円

○定員：3名～10名

○備考：

- ・約1400年前に聖徳太子から伝授
- ・日本で最初の数珠づくりの礎が築かれた地
- ・木珠の生産量は全国7割

○事業者：カワサキ ★川崎孝雄氏



【琵琶湖パール核入れ作業見学体験】※オーナー制度

○実施日：6/12, 7/10, 8/14, 9/11

○参加費：22,000円

○定員：～10名

○備考：

- ・貝ができるのに3年、真珠ができるのに3年
- ・琵琶湖では約90年前から淡水真珠の養殖を開始
- ・真珠を管理する赤野井湾、真珠養殖棚の見学
- ・びわ湖パール体験ワークショップは10人～

○事業者：BIWAKO PEARLS SURPRISE ★廣瀬香織氏



シガリズム体験

【琵琶湖の恵みを体感！伝統漁体験】

- ・琵琶湖を取り巻く環境変化や魚の話聞きながらの漁体験
- ・現役漁師とともに地域の文化や漁師の暮らしぶりを体感します



事業者：
フィッシャーアーキテクト
駒井達也氏

【290年紡がれてきた「近江真綿」体験】

- ・角真綿体験、真綿を引き延ばす手引き体験
- ・290年前からほとんど変わらず守られてきた製法や歴史などの貴重なお話を伺います。



事業者：
山協源平商店
山協和博氏

【百人一首で有名な逢坂の関での組紐体験】

- ・150年以上もの歴史ある藤三郎紐さんでの組紐でのストラップ制作づくり
- ・江戸時代に発明された組台「内記台」。現役の内記台はここだけ



事業者：
藤三郎紐 太田浩一氏

【オリジナル「いろ色浜独楽」づくり】

- ・木地師直接指導による工房見学と独楽への絵付け体験
- ・轆轤（ろくろ）木地師発祥の地で継承される技術を駆使した伝統工芸に触れられます

事業者：
木工所かたやま 片山木工所
片山喜一氏

【大津】藤三郎紐 組紐

「1組限定プラン」百人一首で有名な逢坂の関で体験する近江の組紐体験

5代目の太田浩一氏による、昔から受け継がれてきた珍しい組台についての説明や実演、組紐の歴史などの解説も

実施日 毎週土曜日(不定期の休日あり)

所要時間 2時間

地区 大津市

参加費 1名あたり2500円

定員 1~4名

体験内容

角台という代表的な組台を使用して組紐を組み世界で一つのオリジナルストラップを作成



【1組限定プラン】百人一首で有名な逢坂の関で体験する近江の組紐体験

【大津】藤三郎紐 草木染

「1組限定プラン」百人一首で有名な逢坂の関で体験する近江の草木染体験

5代目の太田浩一氏による、昔から
受け継がれてきた染物体験

実施日 毎週土曜日(不定期の休日あり)

所要時間 2時間

地区 大津市

参加費 1人あたり2500円

定員 1~4名

体験内容

伝統的な近江の草木染めでハンカチ又は手ぬぐいを染色

※様々な色が用意されている
複数の色で染めることも可能



【1組限定プラン】百人一首で有名な逢坂の関で体験する近江の草木染め体験

山脇源平商店 近江真綿体験



真綿引き



山脇社長





シガリズム

- TAIKEN 体験 -

滋賀のリズムにふれて、
心のリズムを
ととのえる旅へ。

滋賀のリズム。
それは、人だけが焦ることなく、
自然と歩みをそろえながら、
ゆっくり、ていねいに暮らしてきた
自然と人とのちょうどいいリズム。

滋賀の暮らしや歴史との出会い。
滋賀の自然空間でのアクティビティ
滋賀の人々とのなにげない会話

いろんなことがある日々の中で、
滋賀での体験はきっと、
心のリズムをととのえる旅になる。

ようこそ。
シガリズム 滋賀・びわ湖へ。

フィッシャーアーキテクト 漁体験



当たり前にある琵琶湖、
その魅力に気づき、琵琶湖にめざめよう！

漁師を始めたきっかけ、
琵琶湖が好きだから…

鮎井健也さん、30歳。
滋賀県栗東市生まれ。お父さんは運搬業の会社員だった。幼少期の鮎井少年にとって琵琶湖は夏のレジャーの一つであり、特に気にとめる対象ではなかったが、大学部生時代に研究で訪れた沖島の漁村の風景に感銘を受ける。「ここにしかないものをいつまでも残くように残していきたい」。そう強く思わせる風景だった。当時、鮎井さんは建築学を学んでおり、建築を通してこの風景を残そうと思った。しかし、風景を残すということ、それは単純に建物を残すということではなく、漁村の生業である漁業が再興しなければ漁村の風景を残していく意義が薄れてしまうのではないかと考える様になる。

実際に滋賀県の水産統計によれば、琵琶湖漁業漁獲量は1970年に6,460tあったものが、2020年には833tと50年で約8分の1にまで減少している。

拙い手の不足も深刻だ。大学の学友が就職活動を始めた頃、鮎井さんは琵琶湖の漁師になることを決意し、自分に漁業を教えてくれる人を探した。後継者がいない漁師さんに出会い、卒業後にその漁師さんに弟子入り、3年間後継者として修業した後、すべてを引き継いで独立した。独立して2年目、多くの方からいろんな漁法を学び漁師として独り立ちしている。これからは、一筋になって琵琶湖漁業を盛り上げてくれる仲間を増やしていく。その為には多くの人に琵琶湖の魅力を伝えていかなくてはならない。琵琶湖漁業が盛り上がり始めれば、あの風景を残していけないと思ひ、多くの人が琵琶湖を感じる事ができる体験メニューを考案した。琵琶湖にめざめ、新たな自分に目覚められる、そんなきっかけを鮎井さんの笑顔に感じた。



網を一面に広めていく この日はカサネサシメジが獲れた
湖上での朝食 この日は地球野菜のメニュー
雄大な比叟山岳を眺めながら、いよいよ網をあげる準備が始まる
沖島200mのワリに到着 早稲田についての説明を聞く
この日は4,000に秋鮎漁獲量

漁業体験の流れ



当日獲れた魚を中心に 鮎島の漁師を聞く
竹筒漁のしかけをあげると 獲量を記録減りながらお魚が獲れていた

当日獲れた魚以外にも鮎井さんが 前日に獲った魚をいすだけ
●この日のメニュー
ピワマスの塩焼き、ニゴイの刺身、スジエヒワカササギの天ぷら

会社情報
フィッシャーアーキテクト
〒520-0515
滋賀県大津市八屋戸944
TEL 060-3862-1380

※漁業体験のメニュー内容は季節により変動いたします。

シガリズム 体験の詳細はコチラ

杉本バラ園 フラワーアレンジメント



花を育む 花が育む

花育という言葉をご存知だろうか。
花育とは、「花や緑の持つ多様な機能に着目し、花や緑を教育、地域活動等に取り入れる取組」で、感謝する気持ち、優しい気持ち、育まれることが期待される。

杉本正樹さん、47歳。杉本バラ園代表。先代である実父が1971年にバラ園をはじめ、杉本さんはバラ園と共に育った。この道30年超のベテランだ。

杉本バラ園は、鑑賞バラ園ではなく、販売用のバラを生産している生産バラ園だ。イギリスのデビット・オースチン社とライセンス契約を締結している。日本国内で生産できる2社の内の1社だ。こちらでフラワーアレンジメント体験と、普段は公開していないバラ園内で杉本さんからいろいろなるバラの話の伺える。

バラの種類は1867年につくられた「フランス」という品種の誕生を境に、オールドローズ、モダンローズに大別される。一般的に親しまれているのがモダンローズ、現代バラだが、このイングリッシュローズはオールドローズの多弁な花形と香り、そしてモダンローズ色のバラエティさと四季咲き性の性質など双方の良い部分を掛け合わせた「バラの最高傑作」と称される。

「バラの花言葉は『愛』と『美』。バラ一本は一目惚れ、108本は結婚してくださいなど、送る本数で伝える気持ちも変わるといふ。

長年、近隣の中学校の職場体験を受け入れてきた。ある時、学校から報告があった。「先日ご厄介になった生徒の一人は、普段登校しない生徒でした。そちらでの体験の後、登校するようになったんです。ありがとうございます。」

「花が持つ言い表せない力を感じた瞬間だった。」



ハウス内でイングリッシュローズのいろいろなお話しを伺える

「綺麗な花を作って、それを贈る方、貰われた方を幸せな気持ちにすることが生き甲斐だった。さらに、この花が持つ不思議な力をより多くの人に知ってもらいたい。」と思い体験メニューを作った。

小学3年生の時に社会科見学に来たと話す20代の男性が満面の笑みで108本の花を買って帰った時、自分の事のようにうれしかった。杉本さんにとってバラとは？「永遠のテーマです。諦めない答えに、杉本さんのバラへの思いがうかがえる。1700坪の広大な敷地に40品種のバラを育てている。『バラの世話に終わりがないんです。自動化していても、直接目で見て手を加えないといけないことが多いんです。』杉本さんに愛されたバラに触れていただきたい。大切な人を思う気持ちが育まれ、花開く。」



200本以上のバラから15本程度選んで、フラワーアレンジメントを体験できる
杉本さんが優しく教えてくれる、初心者の方も綺麗に贈ることができる

会社情報
杉本バラ園
〒520-2531
滋賀県蒲生郡竜王町山之上1541
TEL 0748-57-0451




シガリズム
シガリズム体験の詳細は
コチラ

【道の駅フリーパーパー秋号】

山脇源平商店 真綿づくり体験



近江真綿を体験

「今ひそかにブームになってるねん、
養蚕（ようさん）さん女子。」

そうおっしゃるのは、山脇和博さん74歳。
1730年創業、株式会社山脇源平商店代表取締役。近江真綿の製造・販売を営んでおられる。

山脇源平商店は滋賀県米原市岩脇にある。この地域は米原の中でも特に近江真綿の製造業が盛んな地域だった。1744年に岩脇真綿組合が作られ、日本中に出荷していた記録が残っている。しかし同地域で真綿製造業を継続しているのは同社だけとなった。かつて日本最大の輸出品であった生糸、その原料となるカイコを生産する養蚕は日本の原風景だ。

カイコが作る繭から糸を織って生糸をつくる製糸業、生糸にできない不良の繭・クス繭を煮て引き延ばし繭状にする真綿製造業、どちらも日本の伝統産業だった。

安価な海外製品や化学繊維に押され国産の天然繊維の需要は激減、それに合わせて日本の養蚕農家も減少の一途を辿る。1989年には日本国内に5万軒あった養蚕農家は2021年には186軒まで減少している。

「このままでは真綿の原料である繭を入手できなくなる。真綿文化を継承するには、養蚕するしかない。」2016年にカイコの繭となる桑の木の新増を始めた。2021年には4万匹のカイコを育て繭にした。



江戸時代の養蚕の教科書



カイコの餌となる桑畑



カイコの飼育所で説明を受ける



真綿引き体験

カイコの繭にはセリンという成分が含まれており、これがお肌の角質層水分量を増加させる効果がある。実際に山脇源平商店の従業員の方は毎日繭にふれており、水仕事だが冬でも肌荒れしないという。山脇源平商店ではこのセリンを含んだ化粧品「ランドシリーズ」の「Ureセラヒュア」を立ち上げ、ハンドクリームや美容液などの化粧品販売も行っている。

近江真綿、真綿文化を残したい。真綿のことを知らない若い方にも馴染んでもらえる様に養蚕や近江真綿の歴史など、山脇さんからお話を聞き、実際に角真綿づくりを体験できるメニューを作られた。山脇源平商店で繭と歴史を訪いでみてはいかがだろうか。



角真綿作り体験

会社情報
株式会社山脇源平商店
〒521-0091
滋賀県米原市岩脇1011-1
TEL 0749-52-0076



シガリズム
シガリズム体験の詳細は
コチラ

